

第10章 3, 17~18世紀のヨーロッパ文化

a, 科学革命と近代的世界観

①17世紀ヨーロッパ=[1 **科学革命**]…近代合理主義の思想と学問の確立

[2 **ニュートン**](『プリンキピア』)…[3 **万有引力**]の法則を唱え、近代物理学の基礎を確立

②イギリス経験論と大陸合理論

[4 (**イギリス**) **経験**]論=事実の観察を重視し、そこから一般法則を導き出す帰納法を用いる

[5 **フランシス=ベーコン**]『新オルガヌム』→ロック

[6 (**大陸**) **合理**]論=数学的な論証法を用いる演繹法による

[7 **デカルト**](仏)『方法叙説』…[8 **われ思う、ゆえにわれあり**]

→[9 **スピノザ**](オランダ)ライプニッツ(独)(ヨーロッパ大陸へ広がる)

③社会への適用

近代的[10 **自然法**]思想の成立

[11 **グロティウス**]…自然法を[12 **国際法**]に適用(『海洋自由論』『戦争と平和の法』)

社会契約論…国家の起源を自然状態における[13 **独立した個人**]の間の契約に求める

[14 **ホブズ**](英)…[**万人の万人に対する闘い**]から逃れるために国家をつくる

(『リヴァイアサン』)→[15 **国家主権の絶対性**]を擁護

[16 **ロック**](英)…不当な統治への[17 **革命権**]を擁護「統治二論」

→名誉革命を擁護、アメリカ[18 **独立宣言**]の理論的基礎

④[19 **カント**](独)『純粹理性批判』…[20 **経験論**]と[21 **合理論**]を総合(批判哲学)

→[22 **ドイツ観念論**]をうちたてる

b, 啓蒙思想

①啓蒙思想…[23 **合理**]的な知を重視し[24 **偏見**](身分や家柄、意味のない慣習・伝統)を打ち破ろうとする精神。[25 **18**]世紀の[26 **フランス**]で有力となる。

ア)[27 **モンテスキュー**]…著書「法の精神」で[28 **三権分立**]を説く

イ)[29 **ヴォルテール**]…[30 **『哲学書簡』**](『イギリスだより』)でイギリス社会を賛美する。

プロイセンの[31 **フリードリヒ2世**]と親交をもつ

ウ)[32 **ルソー**]…『人間不平等起源論』や「社会契約論」などで急進的な[33 **人民**]主権論を説く

「[34 **自然に帰れ**]」と主張し文明化の害悪を指摘

→[35 **フランス革命**]に大きな影響を与える

エ)[36 **『百科全書』**]派…すべての事物をし[37 **啓蒙思想**]の立場から見直し、フランスの啓蒙思想家の思想を集大成を編集([38 **デイドロ**]・ダランベールら)

②重農主義…富の源泉は[39 **土地**]、経済の[40 **自由放任**]を求める

(ケネー『経済表』・テュルゴーら)

③自由主義経済学=[41 **アダム=スミス**](英)「[42 **諸国民の富**]」

国民の生産活動全般を富の源泉として、分業と市場経済の基礎理論を展開

→古典学派経済学(リカード・マルサス)

c, 市民文化

経済の発展、市民層の役割増大、[43 **生活革命**]の発展(紅茶・砂糖・コーヒーなどの流行)

→17世紀[44 **オランダ**]や、17世紀以降の[45 **イギリス**]が中心

①絵画…[46 **レンブラント**](17C オランダ)「夜警」

②文学 17世紀の英 ピューリタン文学=ミルトン「[47 **失楽園**]」・バンヤン『天路歷程』

18世紀 デフォー『48 **ロビンソン=クルーソー**]

スウィフト「49 **ガリバー旅行記** 」